

平成20年度 春季展

# 金沢の 文化遺産展 I

～世界遺産提案の地を巡る～



平成20年4月8日(火)

～6月15日(日)

金沢市立玉川図書館 近世史料館

## はじめに

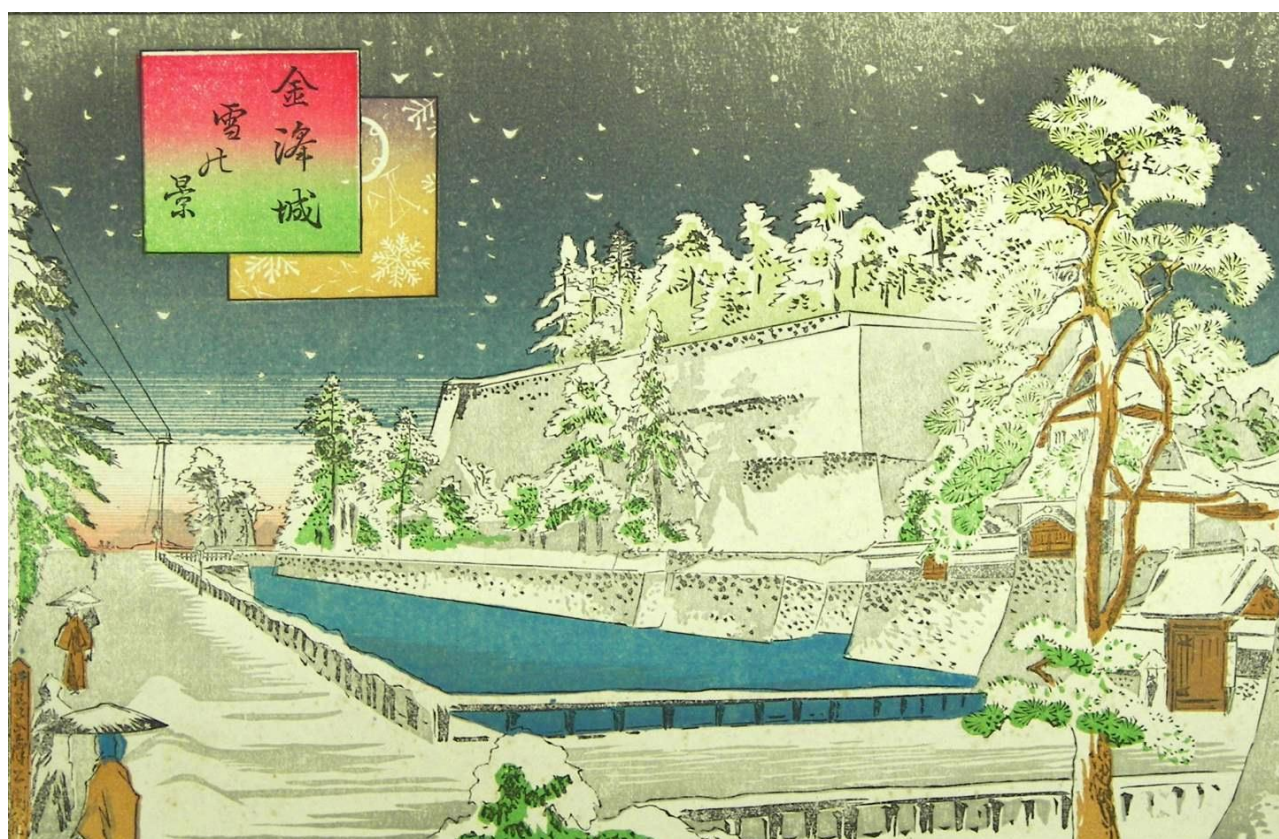
平成18年9月に、世界遺産暫定リストに記載されるための提案の方法が示され、本市では暫定リスト記載を目指し平成19年1月23日に提案しましたが「継続審査案件」となりました。そこで文化庁からの課題を検討し、改善案をまとめ「城下町金沢の文化遺産群と文化的景観」として平成19年12月20日に文化庁に提出しています。

春季展では、今回の提案に含まれる主要な文化遺産の中から、「金沢の文化遺産展Ⅰ」としまして当館所蔵史料の中から金沢城・兼六園・辰巳用水・惣構跡に関する史料を展示いたします。

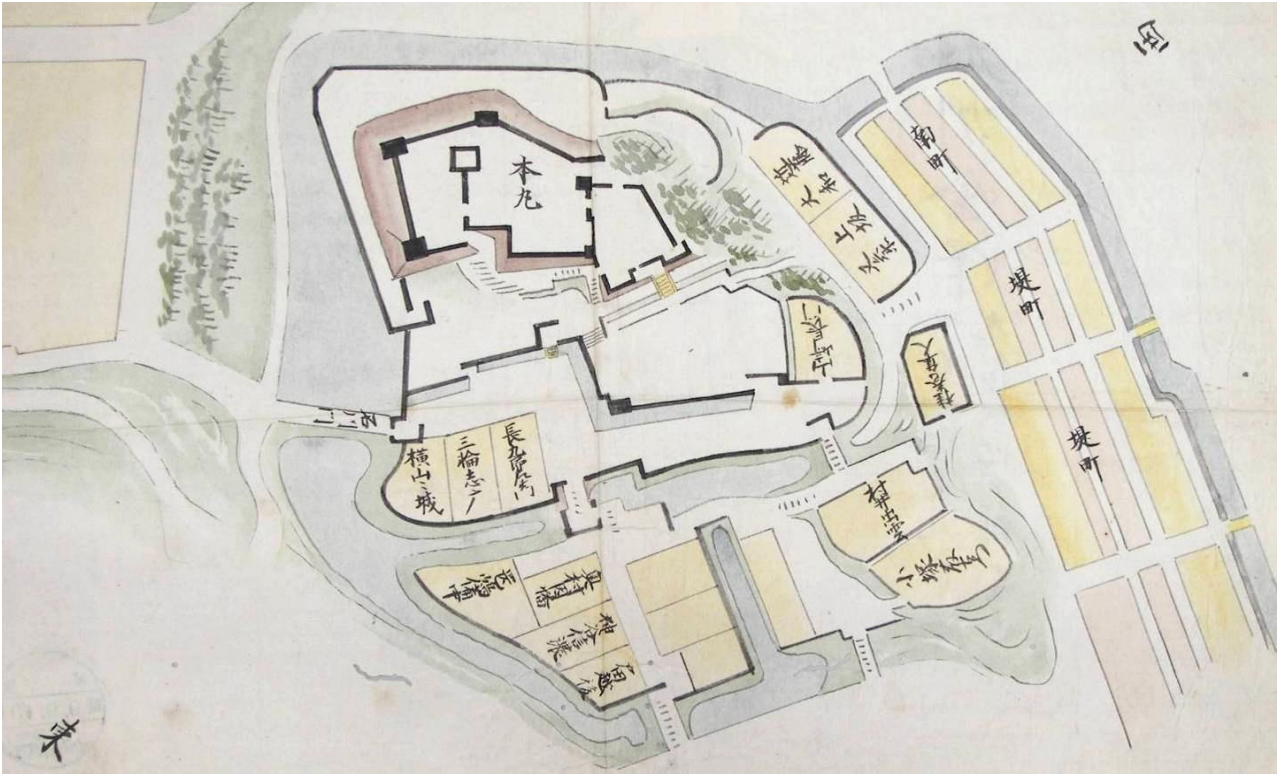
史料を通して文化遺産の往時の姿、その一端に触れていただければと思います。



鉛瓦(参考品)

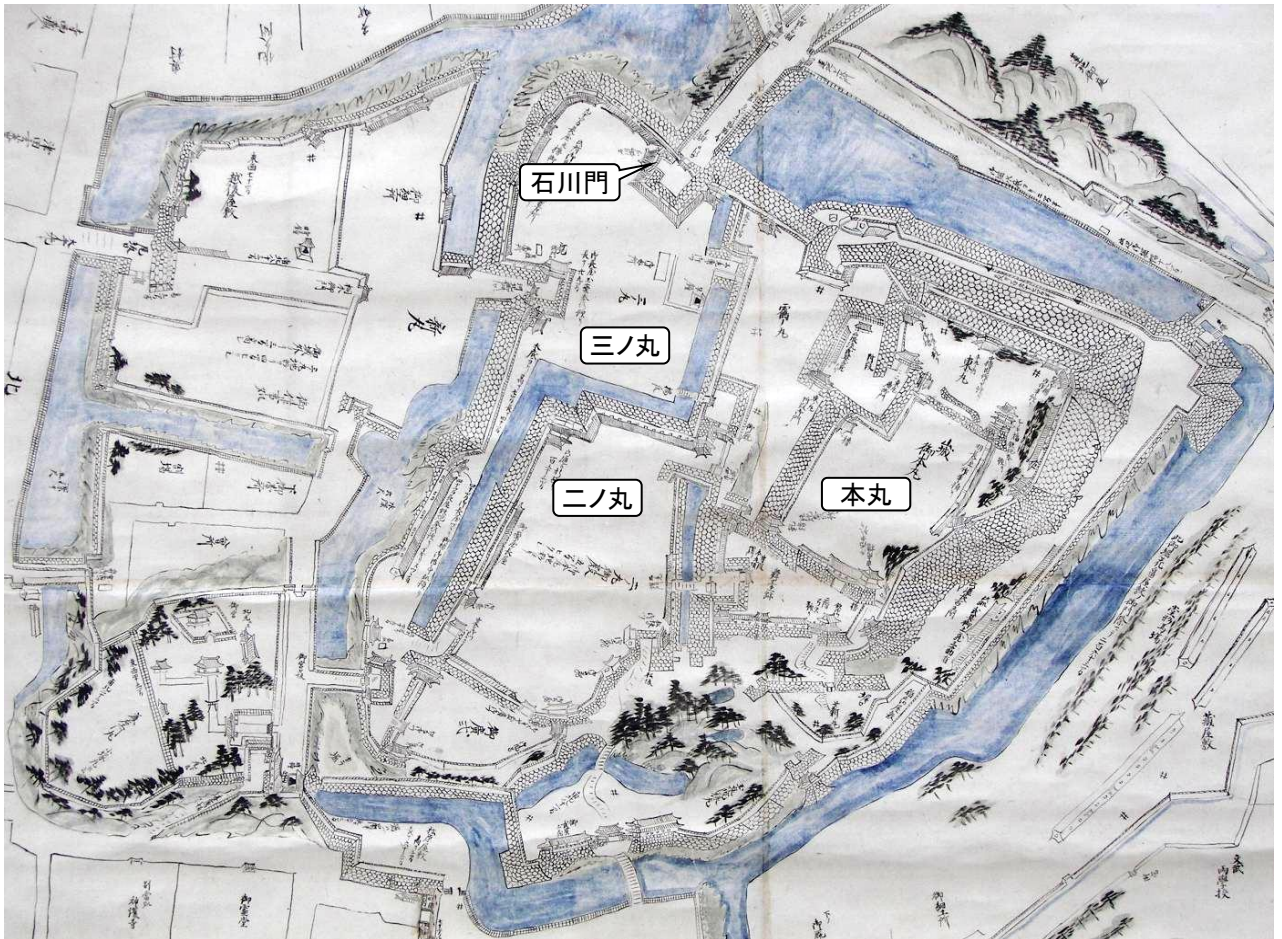


金沢城 雪の景 北陸名所図絵(090-1099)



加州金沢城図(098.6-66「諸国居城之図」98)

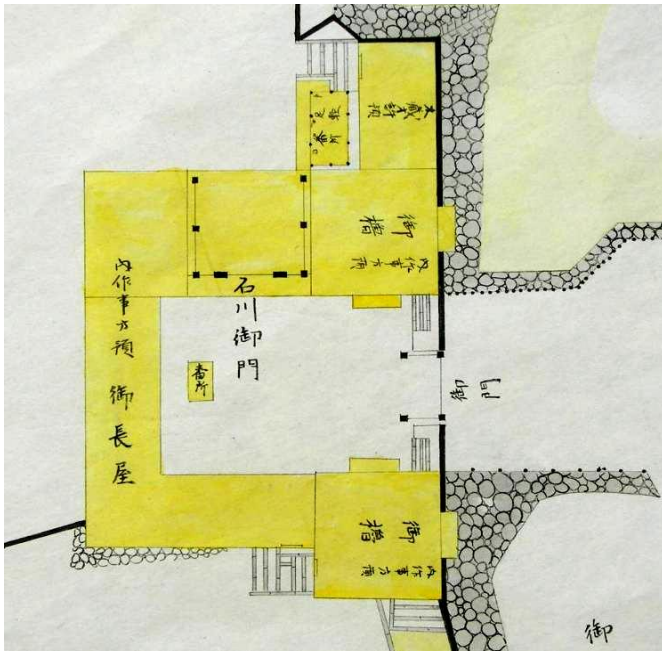
慶長期頃の様子を示す。城内には有力家臣の邸地があり、南町などが西内惣構堀の内側にある。



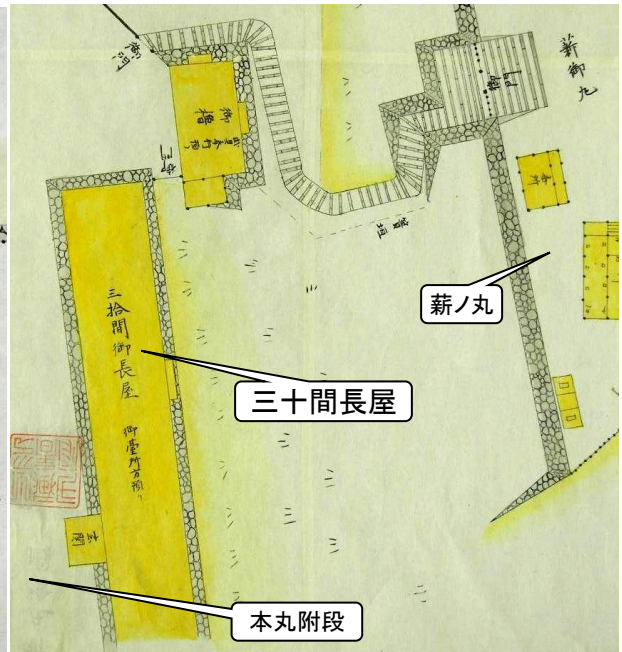
金沢城絵図(096.0-277)

文政期(1818~1830)頃の城の様子を示したもの。

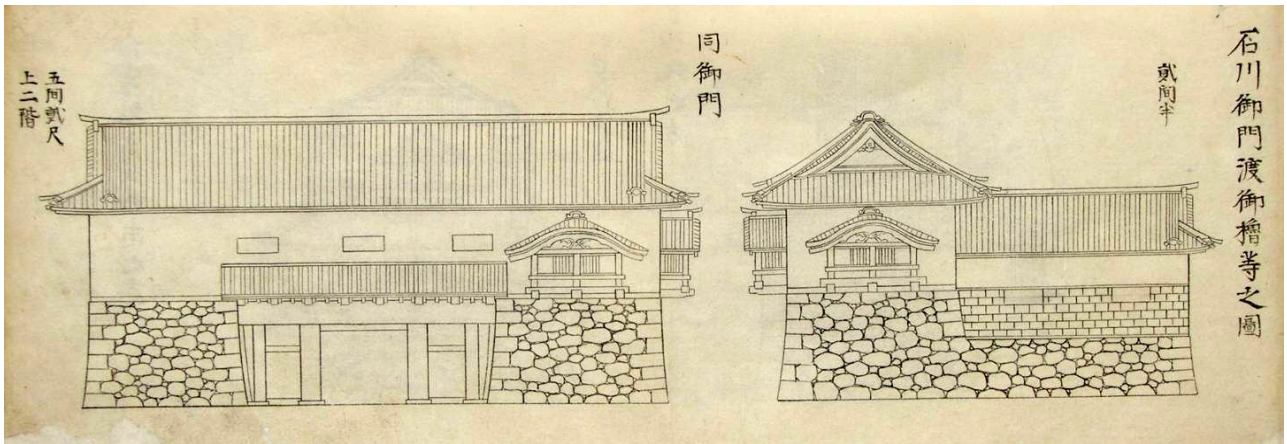
慶応3年写



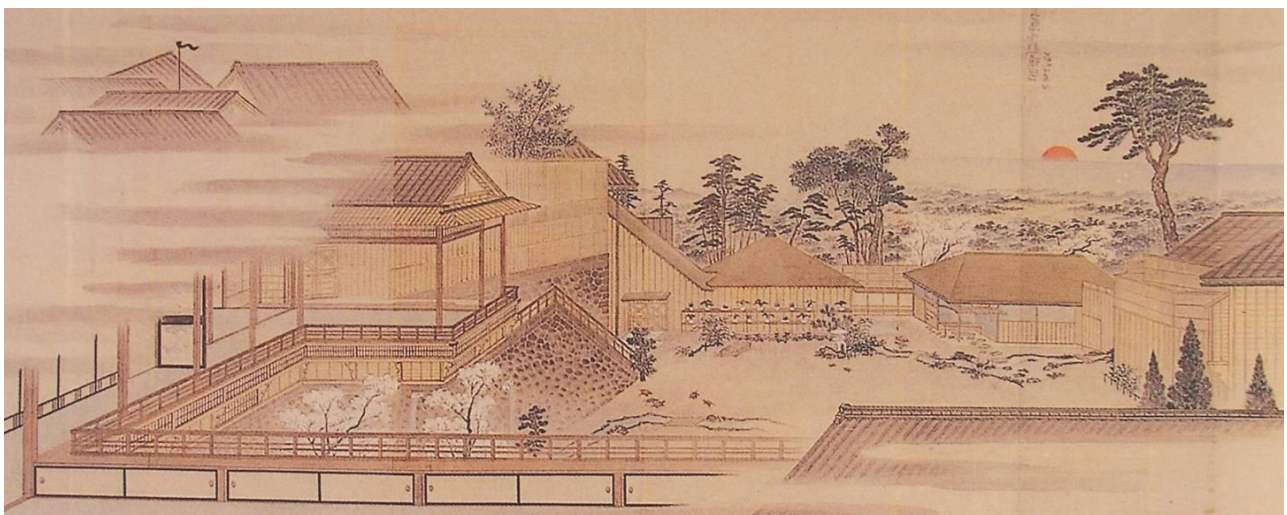
三之御丸図 金沢城図②(13.0-73②)  
石川門部分



薪丸図 金沢城図④(13.0-73④)  
三十間長屋部分

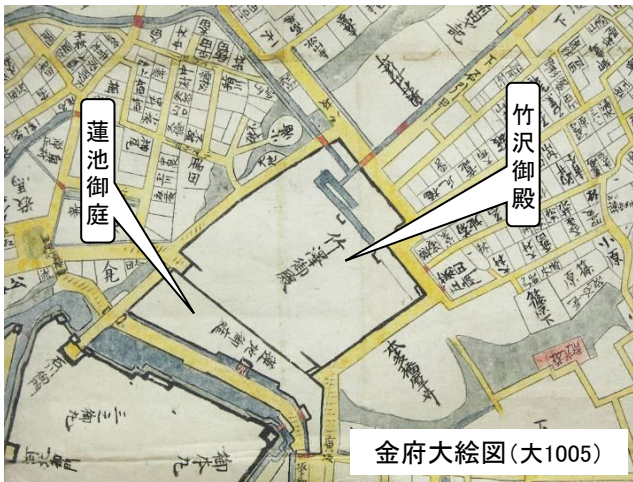
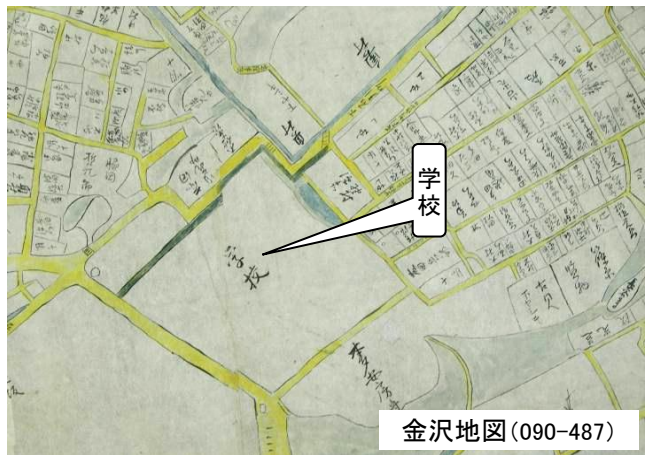
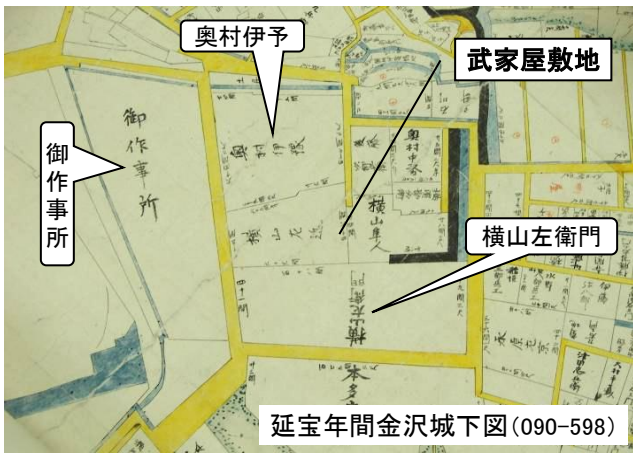


御城中総櫓並御門絵図(090-813)  
石川門部分



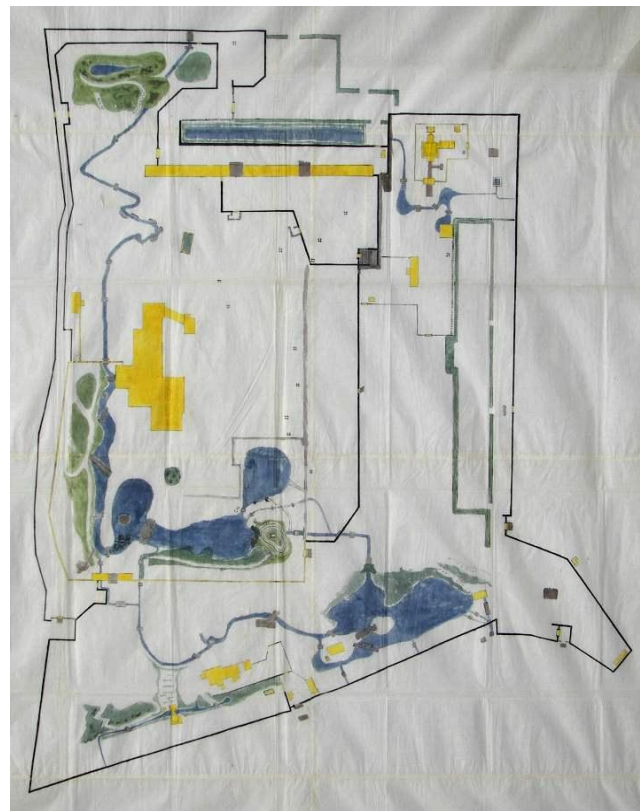
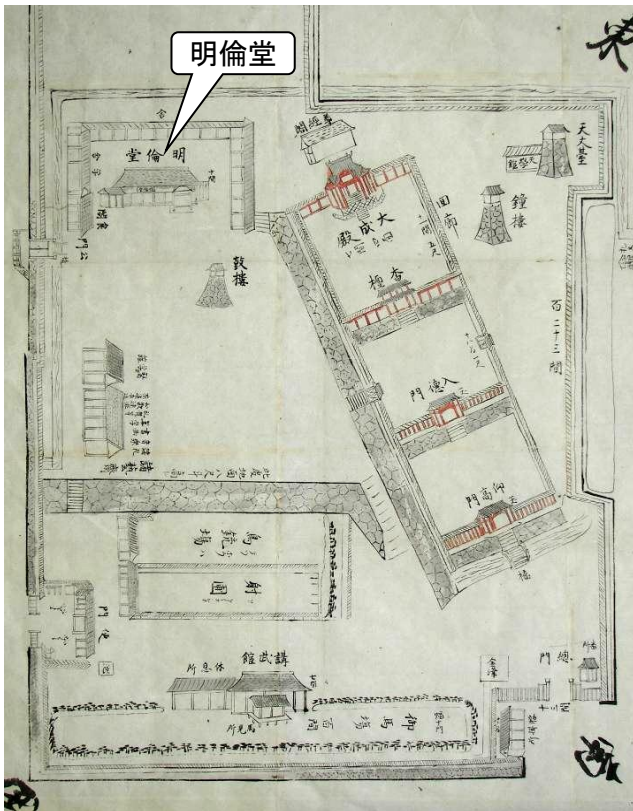
二ノ御丸御広式御居間遠望図(24.2-4)  
安政5年(1858) 加賀藩御用絵師 佐々木泉玄画

市指定文化財



城下図にみえる兼六園以前

学校(明倫堂)は寛政4年(1792)から。竹沢御殿は12代藩主斉広の養老所で、文政5年(1822)から。巽(辰巳)御殿は竹沢御殿の一部で文久3年(1863)から斉広の夫人真龍院の居所となり、明治2年逝去後諸学校や博物館に使われ、その後成巽閣と改称される。



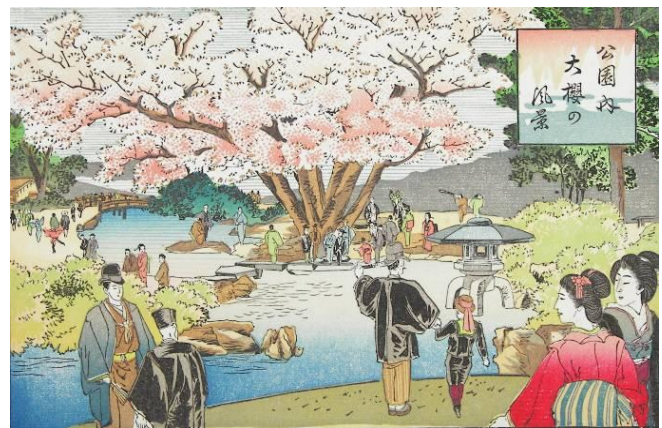


辰巳旧園新造客殿図(24.2-6)

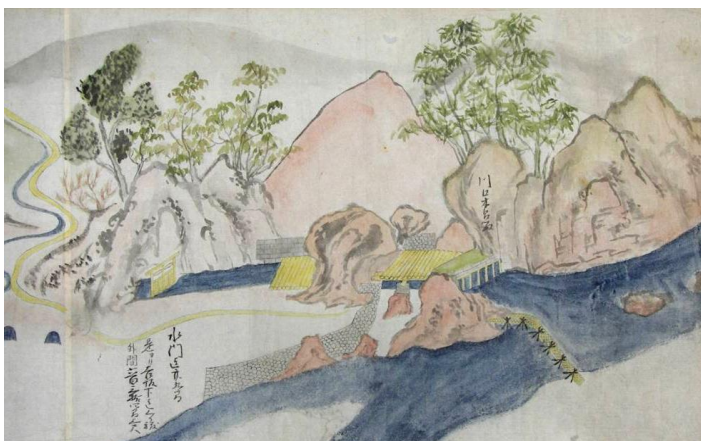
佐々木泉玄画 金沢藩が招へいた鋤山学のドイツ人教師デッケンのために造られた洋風建物。 明治4年頃



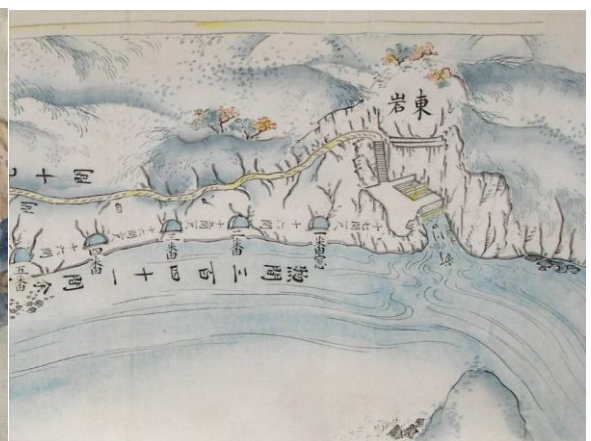
金沢兼六公園之図(大1136)  
明治35年第三版



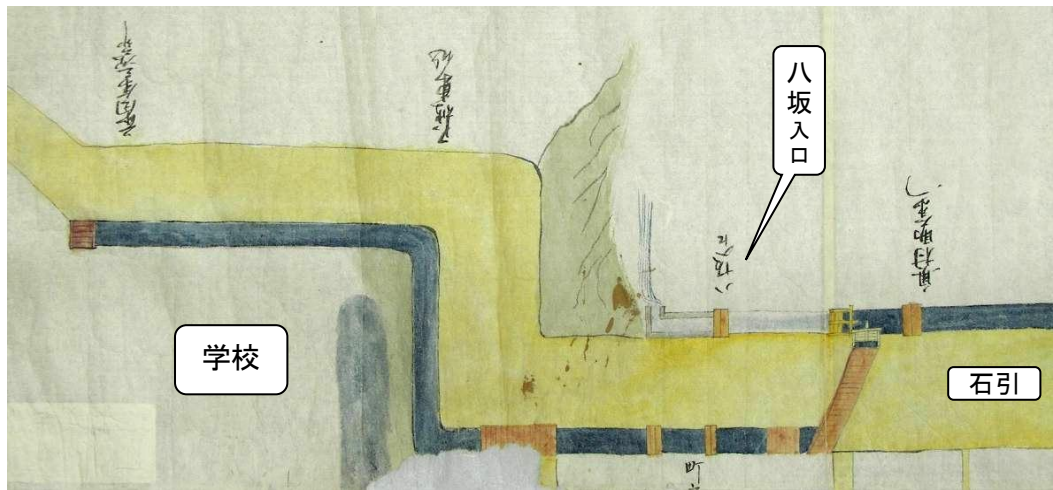
公園内 大桜の風景 北陸名所図絵(090-1099)  
明治30年



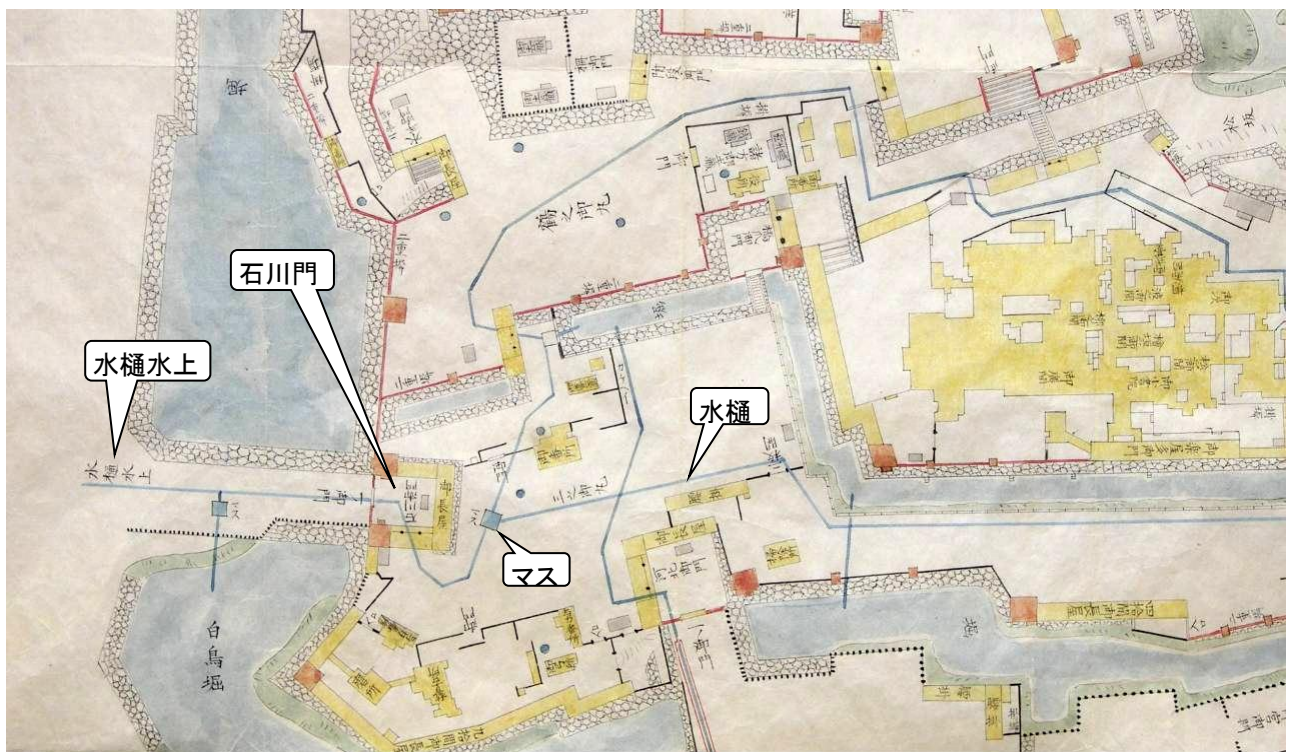
辰巳用水絵巻(090-1113④)  
文化期頃の様子を描く。昭和6年写



金城上水新川口図(大1079)  
東岩の新取水口と旧取水口を描く。

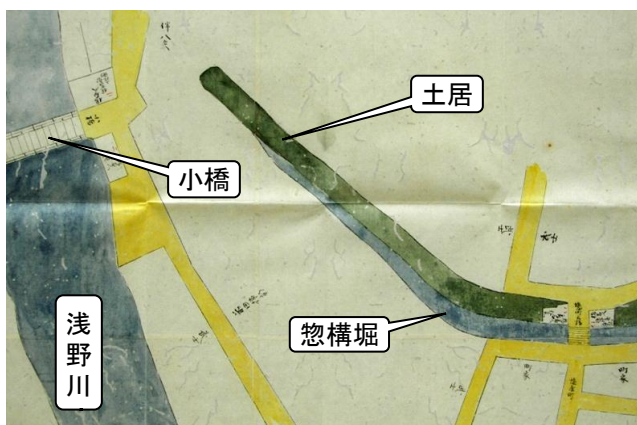


辰巳用水絵巻 (090-1113④)



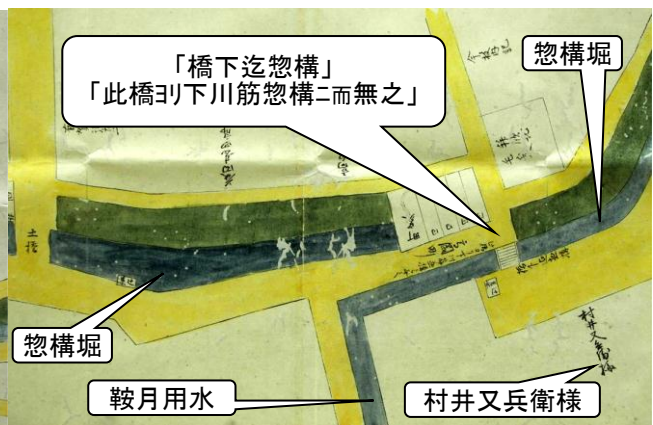
金沢城図 (大1125)

金沢城に引き込まれた辰巳用水の様子がわかる。



金沢町絵図 (090-1034-35)

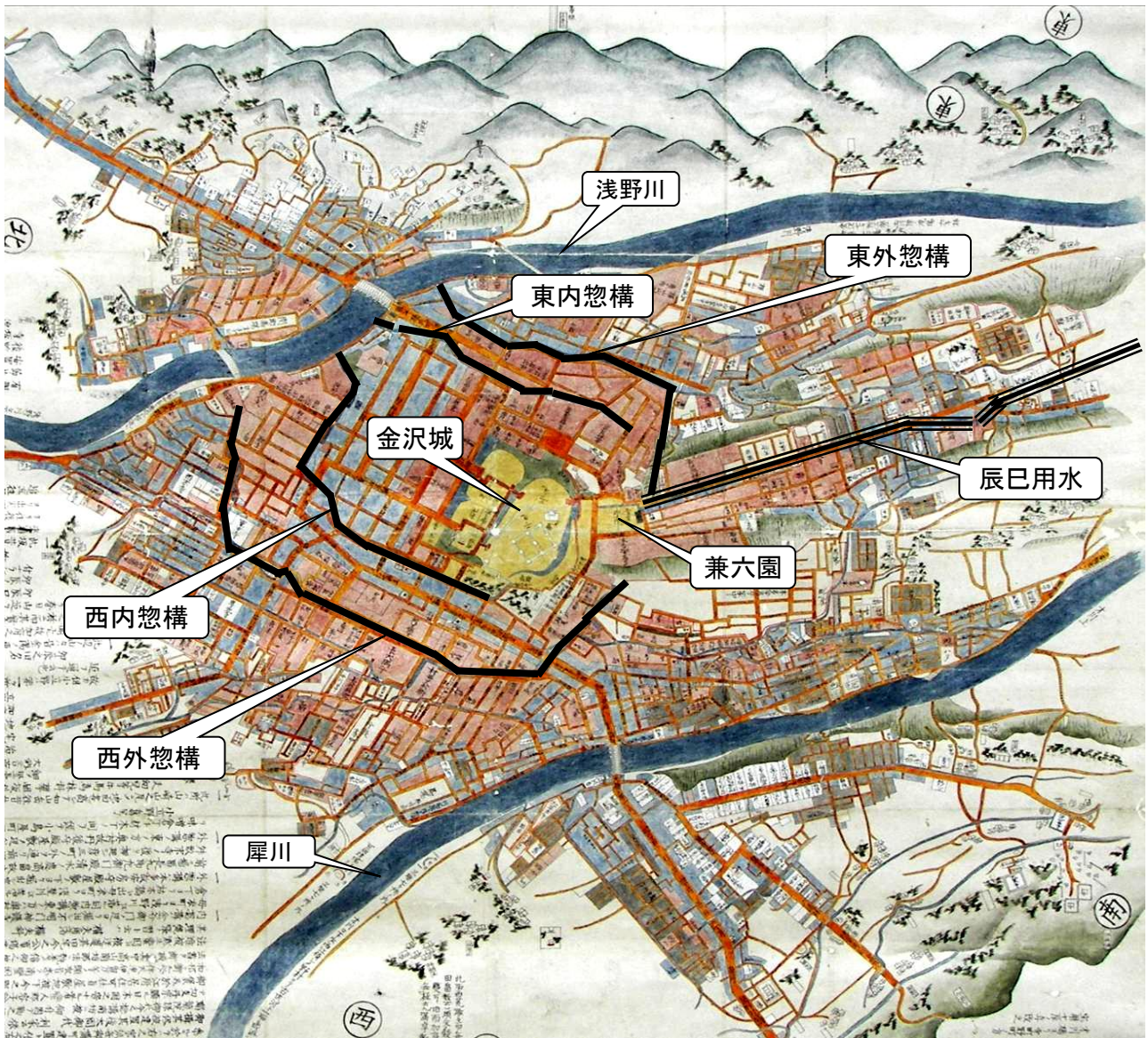
西外惣構の末端、浅野川に繋がっていない。



金沢惣構絵図

金沢町絵図 (090-1034-37)

橋を境に西外惣構堀と用水の区分をしている。



金沢地図(K2-444)

その他展示史料

兼六園古図(別名蓮池庭図)	090-1025-2(10)
寛政三年金沢城之図	098.0-84
三之丸石川櫓御修造棟札写	18.6-120
兼六公園八景	K2-845

表紙	金沢町絵図 尾張町・橋場町・下博労町絵図	090-1034(24)
----	----------------------	--------------

※なお、掲載史料と展示史料は一致しないものがあります。

**次回展示予定**

**金沢の文化遺産展Ⅱ**

期 間 平成20年6月24日(火)～8月31日(日)

内 容 尾山神社 尾崎神社 天徳院  
野田山・加賀藩主前田家墓所  
東山ひがし重要伝統的建造物群保存地区  
土清水塩硝蔵跡 など